

## 短 報 Short Communication

## 北海道鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリにおけるタンチョウの越冬状況

富岡辰先<sup>1</sup>・伊藤良孝<sup>1</sup>

## はじめに

タンチョウは、春から秋にかけて北海道東部の湿原で繁殖し、そのほとんどは冬期、釧路市に隣接する鶴居村と阿寒町に集まり越冬する。主な越冬期の生息場所は、給餌場とその周辺の不凍河川である。ただし、9月の初旬から11月の初旬にかけては、飼料用のトウモロコシ（デントコーン）の刈りとりあとの落ちこぼれを採食するため、給餌場の周辺に広がる畑を生活場所としている個体も多い（北海道 1990）。

給餌場は、約20か所あるが、このうち阿寒町タンチョウ観察センター、鶴居村下雪裡の渡部給餌場、鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリの3か所に、100羽-200羽づつ（時期により異なる）、生息数の90%以上のタンチョウが集中する（正富 1989）。

鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリの活動の一環として、サンクチュアリ内で越冬期（10月-3月）にタンチョウの個体数がどのように変動するかについて調査を行なった。ここではその結果を報告する。

## 調査地および調査方法

鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリは、鶴居市街のはずれで道道釧路鶴居弟子屈線から分岐し、東へ約900m入った地点にある（図1）。面積は約12ha。夏期は牧草地として利用され、冬期は環境庁のタンチョウ保護増殖事業の一環として給餌が行なわれている。

また、サンクチュアリに沿い北から東にかけては、タンチョウのねぐらとなる雪裡川が流れている。サンクチュアリの東側には、雪裡川との間に高さ約8mの河岸段丘崖があり、段丘崖の下には湿地と落葉広葉樹林がある。西側には営林署の雪裡苗畑事業所があり、苗畑が広がっている。南側は、牧草地として利用されている。

調査は、1989年10月26日から1990年3月22日まで、1週間1回、できる限り定期的に悪天候の日をさけて行なった。調査時刻は、日によってタンチョウの個体数が最大になる時刻が異なるため、タンチョウの個体数が多くなる15時から17時30分の間、30分ごとに、成鳥（亜成鳥を含む）と幼鳥に分けて個体数調査を行ない、このうち最も個体数が多かった調査の結果を使用した。

また、標識（足環）をつけたタンチョウについても同時に確認し、記録した。なお、標識をつけたタンチョウについては、本調査以外にも、観察日時、場所を記録した。

1990年11月10日受理

1. 財団法人日本野鳥の会 鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ、〒085-12 阿寒郡鶴居村字中雪裡南



図1. 給餌場の位置.

Fig. 1. Map of Tsurui-mura, showing the two feeding sites.

## 結果および考察

### 1. 総個体数の変動

サンクチュアリに飛来するタンチョウの総個体数は、調査を開始した10月26日から11月10日までの半月で99羽に達した。その後、11月30日まで100羽未満で増減をくり返し、1月4日に153羽と最大になり、2月の中旬から減少した(図2)。

当年9月下旬から11月中旬のサンクチュアリへの集合は、例年より2週間くらい遅いが、周辺のデントコーンの刈りとりあとで、10月5日に48羽、10月21日に60羽が観察されており、これは9月に釧路地方に上陸した台風によりデントコーンが倒れ、鶴居村内で10.63t(湿重)もの刈り残しがあり(原田・富岡 1990)、給餌に頼らなくても容易にデントコーンを採食することが可能であったためと考えられる。

1月11日に85羽に急激に減少しているが、この日サンクチュアリから約6km西南西に位置する下雪裡の渡部給餌場(図1)では約70羽増加している。これは前日の激しい吹雪(北風)が影響したも

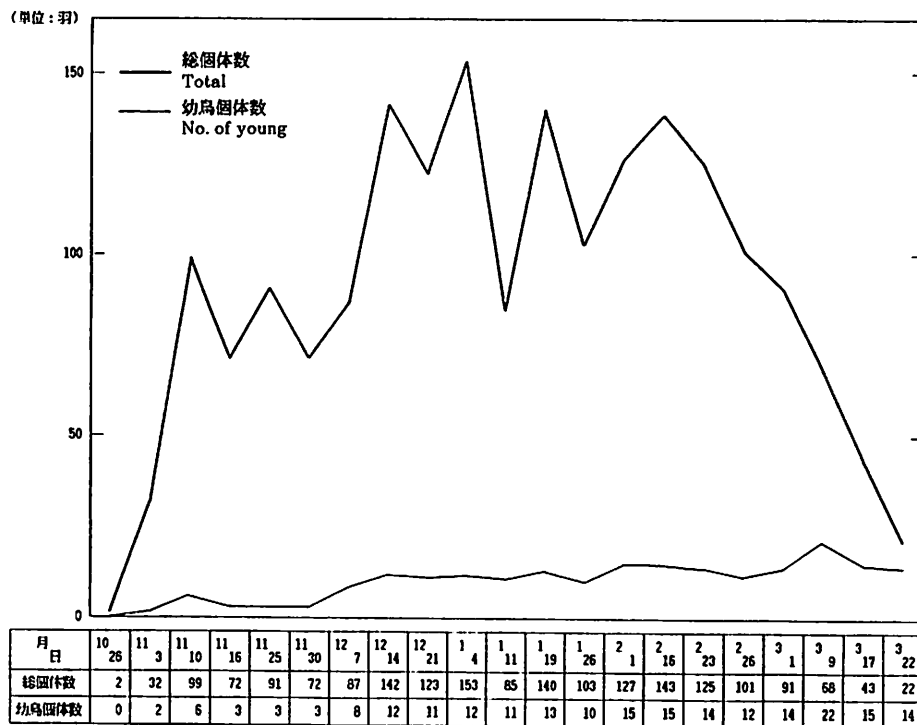


図2. 鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリにおけるタンチョウの個体数の変動。

(1989. 10. 26 - 1990. 3. 22)

Fig. 2. The seasonal fluctuation in the number of Red-crowned Cranes wintering at Tsurui-Itou Sanctuary in eastern Hokkaido.

のと思われる。また、1月4日の153羽に比べ、1月11日には85羽と総個体数が56%に減少しているが、幼鳥の個体数は、1月4日の12羽から1月11日の11羽に1羽減少しただけである。そして、標識をつけたタンチョウ「T02」も1月11日以後、下雪裡の給餌場で観察されていることから、サンクチュアリから下雪裡の給餌場に移動した個体は、家族（幼鳥を連れてきているつがい）でない個体と考えられる。これは、家族はそうでない個体に比べ、なわばり意識や給餌場への定着性などが強いからだと思われる。しかし、家族、つがい、単独個体、亜成鳥の間のなわばりや順位などの関係については研究が十分にされてなく、今後の課題である。

2月16日から成鳥（亜成鳥を含む）の個体数が減少し、越冬地から繁殖地である湿原へ移動することがわかる。

## 2. 幼鳥の割合

総個体数が最大となった1月4日（153羽）では、幼鳥数は12羽で、幼鳥の割合は7.8%であった。また1月26日には、総個体数が103羽、幼鳥数が10羽で、幼鳥割合は9.7%であり、同日に釧路、根室、十勝支庁管内で行なわれたタンチョウ生息状況一斉調査補足調査では、総個体数が441羽、幼鳥数が40羽で、幼鳥割合は9.1%であった（北海道1990）。

2月26日以後は、成鳥（亜成鳥を含む）の個体数は減少するが、幼鳥数は減少しなかった（図2）。これは成鳥は繁殖地へ移動するが、幼鳥のほとんどは越冬地に残るためである。また3月9日に幼鳥

が22羽に増加しているが、これは下雪裡の給餌場から移動してきた幼鳥が加わったためと思われる。

### 3. 標識をつけたタンチョウの動静

タンチョウへの標識(足環)の装着は、タンチョウ基本調査グループ(事務局:専修大学北海道短期大学部 正富宏之)によって1988年から行なわれており、1988年と1989年の6月、7月に根室市庁管内で合計8羽のヒナに標識が装着された。このうち生存が確認されている4羽すべてが、10月初旬から11月初旬にかけてサンクチュアリに飛来した。この4羽の越冬状況は下記のとおりである。

#### ①T02(足環の番号)

1988年7月11日、根室市のトーサンポロ湖で標識をつけられ(正富 1988)、1988年11月18日から1989年3月23日まで当サンクチュアリで越冬した。1989年10月2日にサンクチュアリに再び飛来し、10月中は、給餌場周辺の牧草地やデントコーンの刈りとりあとを点々とし、サンクチュアリにはあまり飛来しなかった。11月中はほぼ継続してサンクチュアリに姿をみせていたが、12月から1月初旬にかけ飛来する頻度が少なくなり、1月10日の悪天候以後は下雪裡の給餌場に移動した。

#### ②T04

1989年6月18日、根室市の風蓮湖畔で標識をつけられ(正富 1989)、1989年10月2日にサンクチュアリに飛来した。その後、周辺のデントコーンの刈りとりあとや当サンクチュア리를点々としていた。1989年11月6日に腹部から足のつけ根にかけて血液で赤く染めて飛来した後、サンクチュアリには現れず、11月9日、サンクチュアリより南へ1.5km離れた河川の中州で死体が発見された。

#### ③T07

1989年6月25日、別海町の西別川河口で標識をつけられ(正富 1989)、1989年10月28日にサンクチュアリから南へ約1km離れたデントコーンの刈りとりあとで確認された。11月7日にサンクチュアリに飛来し、サンクチュアリと周辺のデントコーンの刈りとりあとを点々とし、1990年3月1日までサンクチュアリに飛来していたが、その後下雪裡の給餌場に移動した。

#### ④T08

1989年6月25日、別海町の走古丹の砂州の根元にあたるルツシャルで標識をつけられ(正富 1989)、1989年11月2日にサンクチュアリに飛来した。その後、継続して当サンクチュアリに飛来し、3月18日以後は下雪裡で観察されている。

### まとめと提言

1. 鶴居村内での給餌量11.3t(乾重)に対し、当年のデントコーンの落ちこぼれの量は鶴居村内で6.25t(乾重)であり、給餌量の55.3%と非常に多く(原田・富岡 1990)、タンチョウが給餌場に飛来する時期を遅くした一つの要因と考えられる。現在、給餌が行なわれているが、数年前から給餌量に変更されていないのが現状であり、適切なタンチョウの保護を進めるためには、年によって落ちこぼれの量の差により給餌場への飛来時期に影響があることを考え、給餌量について柔軟な対応が必要であろう。また、野生のタンチョウの採食量についてもわかっていないのが現状であり、今後調査を行なう必要があろう。

2. タンチョウに標識がつけられたことにより、根室地方からサンクチュアリへ移動すること、給餌場を継続的に利用する家族やそうでない家族がいること、サンクチュアリと下雪裡の給餌場との間の個体の移動について明らかになるなど、いくつかの成果が上がった。今後、生存率や寿命などいろ

いろいろなことが明らかにされるであろう。また、識別個体に基づいて採食量や行動などの調査を積極的に行なう必要があるだろう。

#### 謝辞

本調査を行なうにあたり、ウトナイ湖サンクチュアリの築田貴司、酪農学園大学野生動物生態研究会の左土原一暁、岐阜大学生物科学研究会の上野康江、日本大学農獣医学部の田辺龍太、北海道教育大学釧路分校の渡辺剛の各氏にはお手伝いいただいた。下雪裡給餌場の渡部義明、トメご夫妻には貴重な情報をいただいた。また、本論文をまとめるにあたっては、(財)日本野鳥の会研究センターの樋口広芳博士にご指導いただいた。集計およびまとめをF.A. ネットワークの米本佳津代、小倉聖子の両氏にお手伝いいただいた。

これらの方々に厚くお礼を申し上げる。

#### 引用文献

- 北海道保健環境部自然保護課. 1990. 平成元年度タンチョウ生息状況一斉調査補足調査結果.
- 正富宏之. 1989. タンチョウの越冬個体と厳冬期における行動圏. 63年度道科研費による研究報告, pp. 31-32.
- 正富宏之. 1988. TKG ニュースレターNo. 1. タンチョウ基本調査グループ.
- 正富宏之. 1989. TKG ニュースレターNo. 5. タンチョウ基本調査グループ.
- 正富宏之. 1990. TKG ニュースレターNo. 6. タンチョウ基本調査グループ.
- 松尾武芳. 1990. 青い星のツルたち, pp. 63-64. 北海道生活環境部自然保護課.
- 富岡辰先・原田信. 1990. タンチョウと農業との関わり基礎調査.
- 日本野鳥の会ツル保護特別委員会. 1986. 鶴居村サンクチュアリ基本構想.

#### Wintering population of the Red-crowned Crane *Grus japonensis* at the Tsurui-Itou Tancho Sanctuary in eastern Hokkaido

Tatsuyuki Tomioka<sup>1</sup> · Yoshitaka Itou<sup>1</sup>

1. The wintering population of Red-crowned Cranes was studied at the Tsurui-Itou-Tancho Sanctuary in eastern Hokkaido from 26 October 1988 to 22 March 1989.
2. The number of cranes increased rapidly to about 100 in two weeks after the first arrival. The number reached a maximum of 153 on January 4, and decreased after mid-February.
3. The quantity of fallen corn in farms may affect the timing of the cranes arrival at the sanctuary.
4. The cranes moved with changes in weather from the sanctuary to another feeding place. However, families with young cranes tended to stay at the sanctuary.
5. The proportion of young cranes at the sanctuary was less than 10%. This was similar to the proportion of young in the total wintering population of cranes.
6. Four banded cranes were observed at the sanctuary. They had been banded as young

in Nemuro, eastern Hokkaido.

### 1. Tsurui-Itou Tancho Sanctuary. Tsurui-mura, Hokkaido 085-12

The Tsurui-Itou Tancho Sanctuary is situated in the Tsurui-mura, Nemuro City, Hokkaido. It is a natural area of about 100 hectares, which was designated as a sanctuary in 1972. The sanctuary is a natural area of about 100 hectares, which was designated as a sanctuary in 1972. The sanctuary is a natural area of about 100 hectares, which was designated as a sanctuary in 1972.

#### 1.1. INTRODUCTION

The Tsurui-Itou Tancho Sanctuary is situated in the Tsurui-mura, Nemuro City, Hokkaido. It is a natural area of about 100 hectares, which was designated as a sanctuary in 1972. The sanctuary is a natural area of about 100 hectares, which was designated as a sanctuary in 1972.

The Tsurui-Itou Tancho Sanctuary is situated in the Tsurui-mura, Nemuro City, Hokkaido. It is a natural area of about 100 hectares, which was designated as a sanctuary in 1972. The sanctuary is a natural area of about 100 hectares, which was designated as a sanctuary in 1972.

The Tsurui-Itou Tancho Sanctuary is situated in the Tsurui-mura, Nemuro City, Hokkaido.

The Tsurui-Itou Tancho Sanctuary is situated in the Tsurui-mura, Nemuro City, Hokkaido.

#### 1.2. DESCRIPTION OF THE SANCTUARY

The Tsurui-Itou Tancho Sanctuary is situated in the Tsurui-mura, Nemuro City, Hokkaido. It is a natural area of about 100 hectares, which was designated as a sanctuary in 1972. The sanctuary is a natural area of about 100 hectares, which was designated as a sanctuary in 1972.

The Tsurui-Itou Tancho Sanctuary is situated in the Tsurui-mura, Nemuro City, Hokkaido. It is a natural area of about 100 hectares, which was designated as a sanctuary in 1972. The sanctuary is a natural area of about 100 hectares, which was designated as a sanctuary in 1972.

The Tsurui-Itou Tancho Sanctuary is situated in the Tsurui-mura, Nemuro City, Hokkaido. It is a natural area of about 100 hectares, which was designated as a sanctuary in 1972. The sanctuary is a natural area of about 100 hectares, which was designated as a sanctuary in 1972.

The Tsurui-Itou Tancho Sanctuary is situated in the Tsurui-mura, Nemuro City, Hokkaido. It is a natural area of about 100 hectares, which was designated as a sanctuary in 1972. The sanctuary is a natural area of about 100 hectares, which was designated as a sanctuary in 1972.